

「小樽市本庁舎長寿命化計画(案)」に対して提出された意見等の概要及び市の考え方等

意見等の提出者数	4 人
意見等の件数	27 件
上記2のうち計画等の案を修正した件数	2 件

対象施設の現状について



意見等の件数	1 件
上記2のうち計画等の案を修正した件数	0 件

No.	意見等の概要	市の考え方等
1	<p>庁舎の役割について、「庁舎に求められる機能や役割は変化していきます」とあるが、想定される将来の庁舎の役割が示されていない。次のようなことを明記すべきである。</p> <p>(1) 従事する職員が快適である執務スペースとしての機能を有すること</p> <p>(2) 利用する市民の利便性が確保されていること</p> <p>(3) 行政の効率化、住民サービスの継続した向上を実現可能とする基盤の確保</p> <p>(4) 社会情勢や市民ニーズの変化に迅速に対応できる柔軟さの確保 など</p>	<p>御意見をいただきました将来の庁舎の役割などにつきましては、計画の構成上、「第3章 基本的な考え方」の「3 基本方針」の項に記載しております。</p>

「小樽市本庁舎長寿命化計画(案)」に対して提出された意見等の概要及び市の考え方等

基本的な考え方について



意見等の件数	15 件
上記2のうち計画等の案を修正した件数	1 件

No.	意見等の概要	市の考え方等
2	<p>新庁舎の統合化に関する検討の検討案Ⅰ、Ⅱの比較について</p> <p>(1)検討案Ⅰは行政のワンストップ化を図ることを狙いとしていたのだから、行政のワンストップ等による行政サービス品質などの比較項目が存在しないのはおかしい。</p> <p>(2)比較項目①ライフサイクルコストの削減という表現はおかしい。ライフサイクルコストとすべき。</p> <p>(3)比較項目②財源の見通しという表現はおかしい。総事業費と一般財源の確保と分離すべき。</p> <p>(4)比較項目③機能集約の課題の記載内容から評価視点は人口減少への対応のしやすさと理解する。そうであれば、人口減少への対応の容易性などを比較項目とすべき。</p> <p>(5)比較項目③において検討案Ⅰの課題が増えるには自明だが、評価の優劣をつける程のことではない。着工時期あるいは完成時期に多きな差があるのであれば、これを比較項目とすべき。</p> <p>以上から検討比較表は別紙のとおりとすべき。</p>	<p>検討を行うための比較項目としては、御意見をいただきました内容も考えられますが、今後多くの施設の改修・改築が見込まれる本市の状況に鑑み、今回は本庁舎建替の実現を主眼に、コスト面と機能集約に関する3点に絞って検討いたしました。</p> <p>なお、項目の名称につきましては頂いた御意見を踏まえ「ライフサイクルコスト」と「概算事業費(確保すべき一般財源)」に修正します。</p>
3	<p>行政のワンストップ化を進めるためにも、別館のみの建替ではなく検討案Ⅰの統合案にすべき。(2件)</p>	<p>これまでに策定した「小樽市公共施設再編計画」や「小樽市公共施設長寿命化計画」でもいただいた御意見と同じく本庁舎別館と周辺にある保健所庁舎、水道局本庁舎を統合化する方向としておりました。</p> <p>しかし、本計画の策定作業において統合化による機能集約の課題や確保すべき一般財源の状況から、別館のみの建替えとしたものです。</p>
4	<p>DXには、行政文書のデジタル化による保管スペースの削減及び行政文書へのアクセス効率の向上などを実現する施策が織り込まれているはずである。国が提供する共通システムに本機能がなければ、小樽市が自己負担で実現すべきである。この事により、本当に本館に書庫がどの程度必要なのか検証する必要がある。</p>	<p>本庁舎本館1階を書庫として使用する理由は、耐震改修により内部に鉄骨プレースを設置することにより、スペースが狭く分断され、執務室としての活用が難しくなるためです。</p> <p>本当にどの程度の書庫スペースが必要かにつきましては基本計画の段階で精査してまいります。</p>
5	<p>整備手法が建替えであることには賛成します。</p>	<p>整備手法は多くの課題解決を図るため、建替えとして進めてまいります。</p>
6	<p>整備手法について、建て替えではなく既存施設であるウイングベイ小樽の4階スペースを活用することを提案する。</p> <p>このことにより、「建物安全性の確保」「市民向けバリアフリー・ユニバーサルデザイン化」などの課題が解決されるとともに、建設コストにかかわるコストの大幅な見直しが可能になると思う。</p>	<p>民間施設への移転については、本計画策定の中で検討しましたが、築年数や、スペースの問題などを考慮し難しいと判断いたしました。</p>

No.	意見等の概要	市の考え方等
7	<p>建替場所について「現敷地」とすることについて強い異論はないが、次について補足説明などを追記して欲しい。</p> <p>(1) 居住地の重心は徐々に東側に移動しており、『バス本線に近く、駅や街中にも近い』という条件にウイングベイ、石原裕次郎記念館跡地含む小樽築港駅周辺も候補のひとつであるとする。この案を採用しなかった理由は何か。</p> <p>(2) 小樽市が一部権利を有する産業会館は絶好の位置にある。この案を今まで正式に小樽市は検討していない。なぜか。</p> <p>(3) 『市民会館や体育館等の公共施設が集約された場所であり、利便性が良い』とあるが、体育館を利用したものが、同一日に市役所を利用する頻度は相当低いと考える。よってこの記述には意味がない。</p> <p>(4) さらに市役所に市民が来庁することなくオンラインで行政サービスを受けられる頻度を高めることを実現するのだから、『市民会館や体育館等の公共施設が集約された場所であり、利便性が良い』はマイナスのイメージを与える。</p>	<p>(1) (2) について、民間施設への移転については、本計画策定の中で検討しましたが、築年数や、スペースの問題などを考慮し難しいと判断いたしました。</p> <p>(3) (4) について、山坂が多く平坦な土地が少ない本市では、施設ごとに駐車場を確保することが難しいため、公共施設が集約した場所で、駐車スペースを共同利用できるという点では利便性が図られていると考えております。</p> <p>また、市庁舎を利用する方の年代は幅広く、全ての方がオンライン手続に移行する訳ではないため、位置的な利便性を考慮することは必要と考えております。</p>
8	<p>基本方針に従事する市職員が快適に業務を遂行出来る環境を構築することが示されていない。職員の満足度を高めないと、住民サービス充実による住民満足度も向上しない。当たり前のことのようにだが、本計画に明記することで職員の士気も高まる。</p>	<p>業務を円滑に進めるためには、御意見のとおり従事する職員の士気は重要ですので、今後、基本構想を策定する際の参考とさせていただきます。</p>
9	<p>バリアフリー、ユニバーサルデザインの導入に関して：海外からの観光客の利用などを見据えて国際的に規格化された標準案内記号ピクトグラムの導入、看板類のローマ字表記を英語表記に切り替える等の配慮も必要であり、本計画に反映して戴きたい。</p>	<p>いただいた御意見は、必要な観点ですので、今後、基本構想を策定する際の参考とさせていただきます。</p>
10	<p>市民が利用しやすい庁舎について</p> <p>(1) 行政のオンラインサービス化により市民が本庁舎などに行かなくてもよくなることを念頭に置いて、市民が利用しやすいとは何かを再整理すべき。</p> <p>(2) 市政情報発信の場となる建物を目指すとの文面の言いたいことがわからない。市政情報を発信する部署が本庁舎に存在するか、サーバなどの情報機器が本庁舎内に設置されているなどは意味がない。相談の場の確保を進化させてして、対話あるいは会話を通じて市民との距離を縮めるワンストップ相談コーナーの設置をイメージできる表現としたほうが良い。</p>	<p>行政サービスのオンライン化は、今後、市庁舎の在り方に影響を与えるため、基本構想着手前に具体的な検討を進めてまいります。</p> <p>また、「市政情報発信の場」とは本市の様々な情報を集約し発信する、市民交流の場などをイメージしておりますが、具体的な内容につきましては、基本構想の中で検討してまいりたいと考えております。</p>

No.	意見等の概要	市の考え方等
11	<p>機能性・効率性・経済性を重視した庁舎について 令和4～6年度に実施する『規模・機能に影響する内容の検討』において、DX適用を含めた行政プロセス改革が決まる。新しいプロセス・組織による効率の良い行政が確実に遂行される『実効性』を約束する踏み込んだ表現が必要である。</p>	<p>DX化の推進も含め、令和4年度から規模・機能に影響する内容の検討を進め、その中で御意見をいただきました改革等についても検討していくため、現段階において踏み込んだ表現を行うことは難しいと考えております。</p>
12	<p>新庁舎の規模について現状の面積を要しないケースも想定されますとあるが、検討案Ⅱを選定したのであれば、現状の面積以下とする目標を設定して進めるなど行革への取組姿勢に対応した表現とすべき。 将来的に現在本庁舎外にある行政機能を移転させるゆとりを確保する意図がある場合はこの限りではない。人口規模が近い道内自治体の新庁舎の延長面積／職員数が載っているが、行革を推進し延長面積／職員数を極小化した先進事例を調査し、掲載すべきである。</p>	<p>今後の将来負担を考えると、よりコンパクトな庁舎とすることは御意見をいただきましたように必要と考えております。 現時点では面積が増える要素、減る要素がありますので、基本構想、基本計画の中で具体的な方向性を検討してまいりたいと考えております。</p>
13	<p>新庁舎の規模について、単純に職員1人当たりの床面積を比較するのは無意味。業務を行う上で最も最適なフロア配置やオフィス環境を整えると、どの程度の延べ床面積になるか算出して規模を決定するのが妥当である。</p>	<p>職員1人当たりの床面積を比較した理由は、小樽市庁舎の現状の面積が他都市と比較し、どの程度にあるのかということを検証するためでありますので、今後、基本計画の中で御意見をいただきましたとおり、実際に必要な面積を検討してまいります。</p>
14	<p>再生可能エネルギー導入は、コストとエネルギー供給量との比較で検討とあるが、一方で最後の非常用電源になりえると言う側面もある。緊急時の対応と言う単純にコスト計算できない事項も踏まえて導入を検討すべき。</p>	<p>非常用電源は、いただいた御意見のとおり災害時には欠かせないものとなりますので、今後、基本構想を策定する中で、再生可能エネルギーの導入について検討してまいります。</p>
15	<p>現在はエネ消費ゼロという今までにない省エネ建築が登場している。 建設費が割高になったとしても、減少していく小樽市の人口を考えるとランニングコストが安い建物にすべき。</p>	<p>本市の人口減少を考えますと、いただきました御意見のとおりランニングコストの縮減は不可欠でありますので、今後、基本構想、基本設計の中で省エネ建築についても検討してまいります。</p>

「小樽市本庁舎長寿命化計画(案)」に対して提出された意見等の概要及び市の考え方等

計画の実施について



意見等の件数	7 件
上記2のうち計画等の案を修正した件数	0 件

No.	意見等の概要	市の考え方等
16	概算事業費が約60億円とあるが、とても甘い積算と思われる。行政改革を断行するためにネットワーク、情報機器を前提としたDXなどを活用するのだから、ネットワーク含むICT経費は追加すべき。さらに政府は所得倍増のスローガンを掲げており、将来の人件費高騰分は織り込むべき。総額を約80億円としても全体の計画には影響はないと考える。	現在の概算事業費は「建築工事費」「設備工事費(電気、機械)」「外構工事費」「解体工事費」の合計額としており、ICT経費などは含まれておりません。 今後行う、基本構想や基本設計に並行して、御意見にございます情報機器を始めとした、必要な費用について精査してまいりたいと考えております。
17	ライフサイクルコストについて、前述の通り概算事業費を約80億円として見直すと350～400億円となる。1年あたり約5億円とということである。これが現本庁舎のライフサイクルコストと比較してどの程度増加しているのかを示すべきである。	ライフサイクルコストの額は、本庁舎を建て、維持をしながら使用し、最終的に解体するまでの額を試算したのになります。 本来の目的は、御意見をいただきましたように、現本庁舎を維持し続けた場合と建替えた場合の比較するためのものですが、現本庁舎のように建替え以外の選択肢がない中では、あくまで参考数値であるため、比較は行っておりません。
18	概算事業費及び財源等の(4)であげる財源だけでは今後の維持管理が難しいように感じる。例えば、市民や市外の人が利用できる何らかの施設・設備を整え、市民や市外の人から利用料や寄附金を募る等により、事業債や税金以外の財源を確保するみたいな検討があった方が良いように思う。	現時点では庁舎維持管理などのために利用料や寄附金を募ることを想定しておりませんが、今後、基本構想の段階で施設内容を検討する際に、御意見を参考に利用料の負担も視野に入れた検討をしてまいります。
19	PFI手法適用のメリット、デメリットが示されることが総合的に判断するとメリットが上回る。PFIを適用すると完成時期が3年遅れると示されるが、PFIの適用可否判断を令和4～6年度に実施すれば良い。同時期に行われる規模・機能に影響する内容を検討する職員とPFIの適用可否判断を行う職員は異なり、職員の負荷増とはならない。	PFIの導入については、他都市の先進事例を参考に、適用可否判断の前倒しも含め今後、検討いたします。
20	PFI手法の活用を考えていますが、市が直接執り行った方が良いと思う。まずPFIはスケジュールが長くなる。すでに老朽化が危険なレベルに達しているので、1日でも早く建替える必要があると思う。 次に、庁舎は市民の重大な個人情報などを取り扱う施設なので、そのような施設を民間に委ねるのは、色々な面で危険性と不安を感じる。	

No.	意見等の概要	市の考え方等
21	<p>令和4～6年度に行う規模・機能に影響する内容の検討には本来今年度までに実施しなければならなかった事項の先送りが含まれていると認識する。国の動向を確認しながら適用性を検討する不明瞭な共通システム導入というDX化などもあるが、この工程を予定どおり内容ある成果物が得られるように確実に進行する必要がある。そのためには令和4年度当初からロケットスタートする必要がある。よって本工程の詳細日程を令和3年度に作り込む必要がある。できれば本計画に反映して載きたい。</p>	<p>令和4～6年度にはDX化、人口減少に伴う組織の在り方など規模・機能に影響する必要な整理を行うこととしております。 この内容は御意見のとおり、建替えの有無にかかわらず検討すべきことも含まれておりますが、内容の整理、検討に時間を要するため、精力的に進めてまいりたいと考えております。</p>
22	<p>令和4～6年度に行う規模・機能に影響する内容の検討は将来的にはネットワーク技術とICTを活用した電子自治体を意識して行われると想定されるが、既に従来の行政施策として掲げながら実行不十分の事項が多々ある。少なくとも下記について認識しており、行政の迅速な確実な対応が急務である。小樽市の取組姿勢を明らかにして欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)マイナンバーカードの取得推進、健康保険証適用・銀行口座登録含む (2)キャッシュレス化の推進 (3)高齢者を含む住民のITリテラシー向上のための住民教育実施 (4)住民税、水道料金など支払い手続きを口座振替にする事 (5)オープンデータの強力な推進、まずは条例設置による職員の意識改革から (6)アンケートシステムによる市と市民との対話を増やすこと (7)行政情報のデジタル化によるペーパーレスの推進、資料保管スペースの大幅削減 (8)議会の改革推進、道内先進事例のキャッチアップ (9)今後の人口数見極め (10)単年度収支を黒字化する行政施策の策定と断行、対応した職員評価制度の見直し (11)今後の財政情報を見極め、少なくとも歳出は積上げ、人口比を算出する (12)職員の仕事内容の見える化と適正化計画へのフィードバック (13)職員の育成推進、プロセス改革、DXなど (14)公共施設の維持を目的した施策の断行と定着化、バスの利用機会を増やすなど (15)町内会機能の見直し含む協働によるまち作り推進施策の具現化 	<p>いただきました御意見は市本庁舎の長寿命化と直結しないものもありますが、今後、規模・機能の検討を行う際、関連するものについて参考とさせていただきます。</p>

「小樽市本庁舎長寿命化計画(案)」に対して提出された意見等の概要及び市の考え方等

実現化に向けて等について



意見等の件数	4 件
上記2のうち計画等の案を修正した件数	1 件

No.	意見等の概要	市の考え方等
23	<p>計画の推進体制は市民から多くの意見を取得するが庁内検討委員会にて行うとある。令和4～6年度に行う規模・機能に影響する内容の検討のうち、行政改革に関することは住民の行政に対する行動・意識の改革を伴うわけであるから、多くの住民を参加させるべきである。利用者・納税者としての住民の立場でなく、事業・業務改革、ICTに精通した住民も多くいると考えられ、彼らの参加によるオール小樽体制を構築すべきである。</p>	<p>より実効性のある計画とするために、多くの御意見をいただく形について検討してまいります。</p>
24	<p>市民にとって利便性が高く、親しまれる庁舎となるようであるが、親しまれるという表現に違和感を感じる。庁舎に行かなくてもよいようにプロセス改革、行政のオンライン化を実施するのだから、別な表現が良い。</p>	<p>市庁舎を利用する方の年代は幅広く、全ての方がオンライン手続に移行する訳ではないと考えております。 また、市民交流の場としての機能も想定していることから、このような表現をしたものであります。</p>
25	<p>令和4～6年度に行う規模・機能に影響する内容の検討については、月次レベルでの進捗状況がわかるように運営すべきである。進捗及び停滞している課題とその対処などは市民にも公開すべきである。このようなプロジェクトの運営に関することも追記して欲しい。</p>	<p>現時点では検討を行う体制も検討中であるため、プロジェクトの運営を示すことは難しいところです。 進捗状況の公開につきましては、今後、検討してまいります。</p>
26	<p>多くの市民などに本計画を周知徹底させる必要から、本計画を策定している部署と連絡先(電話番号、メールアドレス)などは表紙あるいは最終頁などに記載すべきである。</p>	<p>計画書完成の際には、御意見を踏まえ担当部署等を記載いたします。</p>

別紙【意見 No.2】

比較項目	重要性	検討案 I	評価	検討案 II
行政サービス品質 ワンストップ実現性	◎	保健、水道を含めたワンストップサービスを当初から実現でき、他の行政機能の一体化を誘発させる	≫	現本庁機能の移転に注力し、ワンストップサービス実現の検討の優先度が低くなる可能性が高い。
ライフサイクルコスト 総事業費	○	3 老朽化施設が対象 約 9 4 億円	<	本庁舎のみ対象 約 6 0 億円
確保すべき一般財源	○	約 1 9.2 億円	<	約 1 5 億円
完成時期 難易度の高い課題数 課題への傾注度	○	現本庁機能、保健、水道を含めたワンストップサービス検討等を回避できない。しかし、完成時期には変動を与えるほどではない。	—	現本庁舎機能の移転に注力し、ワンストップサービス実現の検討の優先度が低くなる可能性が高い。DX 対応は共通システム導入に留まり、行政効率化が後回しになる。
人口減少への対応性	◎	大きな庁舎を所有することで、他の建物に存在する行政機能を取り込みやすい	>	現本庁舎機能の移転に注力し、人口減少への方針設定などの重要事項の先送りが懸念される。
総合評価	—	<p>検討案 I が極めて良い</p> <p>本庁舎建て替えと合わせて長年停滞していた行政の効率化、ワンストップサービス等実現による行政サービス品質の向上、さらには人口減少への対応について市職員が検討できる環境としては検討案 I が優れる。財源確保の課題については市民、民間からの寄付・融資を募るなど今後の課題としたい。</p>		